



占冠村議会議長  
児玉 眞澄

新しき  
年の初めの  
初春の  
今日降る雪の  
いや重け吉事

**皆**さま、明けましておめでとうございます。占冠村議会を代表しまして、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

村民の皆さまにおかれましては、新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、旧年中は占冠村議会に對しまして温かいご支援、ご指導、そしてご叱声を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

冒頭の和歌は万葉集の編纂者といわれる大伴家持が最終歌として自ら詠んだ賀の歌で、現代訳では「新しい年の初め、初春の今日に降る雪のように、めでたい出来事よ、ますます重なり積もってくれ」の意となりますが、まさにこの一首のように今年こそは吉事が続くことを願うものであります。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症は感染法上の分類が2類から5類へと引き下げられ、またコロナの時代へ突入しましたが、依然として感染は続いており、議会においても半数の議員が罹患するという事態に陥りました。幸いにも全員、軽症で事なきを得ましたが、村民の皆さまには感染拡大の防止に多大のご理解とご協力を頂き、村内において最小限の感染に留まったことにつきまして、心から感謝申し上げます。

また、10月にはアスペン市との姉妹都市提携30周年記念式典がトリー市長をはじめとするアスペン市代表団の皆さまを迎え、本村で開催されました。この1月には返礼として占冠村代表団がアスペン市を訪問いたしますが、この国際交流が文化、経済にも波及し、

し、持続可能で誰もが報われる社会をめざすことが、私に課せられた責務であるとの思いで頑張る覚悟であります。

引き続き、村民の皆さまの寛大なご配慮とご支援により、目標に向かって挑み安心して暮らせる村づくりを進めてまいります。そして、迎える新年が希望の持てる年になるよう期待をしております。

今年は「辰年」です。動物に当てはめると竜（龍）ですが、竜は十二支で唯一の想像上の動物で、漢書では辰は「ふるう、ととのう」を意味する「振」で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形が整った状態を表すと解釈されています。そうしたことから辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年だといわれており、過去の辰年にはアジア初となる東京オリピックの開催、世界発の高速鉄道「東海道新幹線」の開業、青函トンネルや東京ドームの完成、BSデジタル放送の開始など大きな転換点となっております。

2024年の「辰年」は、私たちが経験したことのないコロナから回復し、地域経済活動、住民活動がこの数年間から大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年になってほしいものです。

占冠村の基幹産業である農林業や観光産業の進展、生活の基盤である福祉や医療の充実、そして教育や子育て環

も「模擬議会」として生徒が一般質問を行う形式で開催いたしました。グループワークにおいて事務局から全生徒に議会の仕組みや本会議における規則等を説明し、担当議員も助言しながら、生徒が質問内容を取りまとめ、議場において本番さながらに質問、答弁を行いました。子どもたちの意見を聞く貴重な場であり、さらに議会を知ってもらう機会でもありますので、学校側とも結果を共有し、引き続き取り組みができればと考えております。

さて、昨今における地方都市の大部分は少子・高齢化や過疎化などに歯止めがかからず、多くの厳しい課題に直面しており、さまざまな施策によりこれらの課題に對応することが求められております。

村政において山積している課題は多岐にわたり、経済の活性化、雇用対策、高齢者や子育て支援、農林業の再生、医療、教育対策等に取り組んでいかなくてはなりませんし、防災、減災対策を一層推進していく必要があります。

こうした中、議員個々においてはさらに研さんに努め資質の向上を図るとともに、議会は意思決定機関として、また執行機関の監視・評価機関としてその役割を十分に発揮しながら村民の福祉の向上および村政の発展に寄与していく責務があります。

どうか本年も村議会に對し、さらなるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆さまにとりまして冒頭の一首のように吉事多き、大いなる飛躍の年となりますようご祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。



占冠村長  
田中 正治

年頭の  
ごあいさつ

**村**民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。ご家族そろって健やかに新年を迎えることと、心からお喜び申し上げます。

顧みますと、3年以上にわたり地域活動が制限され、不自由な生活を余儀なくされてきた新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行され、元の社会経済活動を取り戻そうと住民生活優先の政策を進めてまいりました。

そうした中、昨年1月には姉妹都市であるアスペン市を訪問し、10月には延期としていた姉妹都市交流30周年の記念イベントを行うことができました。本年11月にはアスペン市で行われる記念イベントへ訪問団を派遣することになり、村民のご理解とご協力に心より感謝しております。

また、コロナ前に戻して村民スポーツレクリエーション大会やふるさと祭り、紅葉まつりなどを行うことができましたが、まだまだ皆さんの生活、行政活動などの地域コミュニティの維持、楽しみにしている各種活動など、不自由な生活が続いた1年でもあったと思います。

迎える新年に向けては、村民の皆さんとお約束をした政策実現や地域状況に合わせた政策実行のため、着実に前へ進めなければと考えております。

一方で、温暖化など気候変動や武力攻撃による国際紛争などもあって、先が見通せない経済状況にあり、村内的にはまだまだ多くの課題がありますので、新たな気持ちで村発展のため努力

し、持続可能で誰もが報われる社会をめざすことが、私に課せられた責務であるとの思いで頑張る覚悟であります。

引き続き、村民の皆さまの寛大なご配慮とご支援により、目標に向かって挑み安心して暮らせる村づくりを進めてまいります。そして、迎える新年が希望の持てる年になるよう期待をしております。

今年は「辰年」です。動物に当てはめると竜（龍）ですが、竜は十二支で唯一の想像上の動物で、漢書では辰は「ふるう、ととのう」を意味する「振」で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形が整った状態を表すと解釈されています。そうしたことから辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年だといわれており、過去の辰年にはアジア初となる東京オリピックの開催、世界発の高速鉄道「東海道新幹線」の開業、青函トンネルや東京ドームの完成、BSデジタル放送の開始など大きな転換点となっております。

2024年の「辰年」は、私たちが経験したことのないコロナから回復し、地域経済活動、住民活動がこの数年間から大きく「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年になってほしいものです。

占冠村の基幹産業である農林業や観光産業の進展、生活の基盤である福祉や医療の充実、そして教育や子育て環



境の充実など、迎える新年は着実に物事を進め、将来の成功へつながればと願うところです。

また、「ゼロカーボンシティ占冠宣言」の実践に向けた、占冠アクションプランに基づく取り組みを進めてまいります。

村民の皆さんとともに全力で村づくりに取り組んでまいりますのでご支援、ご協力をお願いいたします。

村民各位におかれましては、コロナ禍を乗り越えた自信のもと、新年が希望に満ちた素晴らしい年でありますようお祈り申し上げます、年頭のごあいさついたします。